



スキンヘルス・フラザ 24

経口気管挿管チューブの 安全な固定について



大分赤十字病院西4病棟看護師の時枝幸子さんと原智美さん(右)

経口気管挿管チューブは、人工呼吸器を装着している患者の生命を守るため抜けないことが大前提になります。大分赤十字病院西4病棟では、挿管チューブの固定方法についての現状調査を行い、挿管チューブのずれと皮膚トラブルの対策について検討しました。その研究結果を紹介します。

固定のずれや 皮膚トラブルの解消が目的

大分赤十字病院では、2003年に経口気管挿管チューブの固定マニュアルが作成され、その手順は院内で統一されています。しかし西4病棟では、固定中にテープが緩んだり、バイトブロックを患者が舌で押し出そうとすることで固定がずれることがありました。また、固定テープやバイトブロックの影響で、表皮剥離などの皮膚トラブルを起こすこともあったそうです。

西4病棟看護師の時枝幸子さんは、「他の病棟ではこのようなトラブルが起きていないのか疑問に感じたため、各病棟の看護師に現状調査を行いました。そして、当院の固定手順マニュアルの問題点を探ることを目的に研究を始めました」と言います。

調査対象者は、師長、係長、新人看護師を除く全病棟に勤務する看護師。昨年の8月下旬から9月上旬に、アンケートを行いました。108名の回答が

集まり、そのうち経口気管挿管チューブの管理を行ったことのある看護師は74名(69%)でした。

そして、「いままで固定が一度でもずれたり不安定だと感じたことはありますか?」との質問に「はい」と答えた看護師は74名中66名(89%)と、高い結果が出ました。

同病棟の原智美さんは、「ずれの状況は、バイトブロックが押し出されて挿管チューブも一緒に押し出された、固定テープが取れそうだった、挿管チューブの位置が浅く・深く・グラグラになっていた、という回答が多くありました」と言います。

挿管チューブがずれる要因は、「髭や皮脂、唾液によるテープの粘着力の低下」が最も多く、「口や舌の動き、体位変換、人工呼吸器の蛇管が動いたときに挿管チューブもずれた」「高齢でやせており総入れ歯のためバイトブロックごと落ち込む」「マニュアルの固定方法自体の問題」「固定テープが短かった」といった回答が得られました。

「皮膚トラブルに関して、『経験がある』と回答した人は80%もいました。そのほとんどが、固定テープによる左右の頬の表皮剥離でした」と原さんは言います。

そこで時枝さんと原さんは、①挿管チューブのずれ、②皮膚トラブルの2点に焦点をあてて検討しました。

固定テープの粘着力と バイトブロックの使用条件

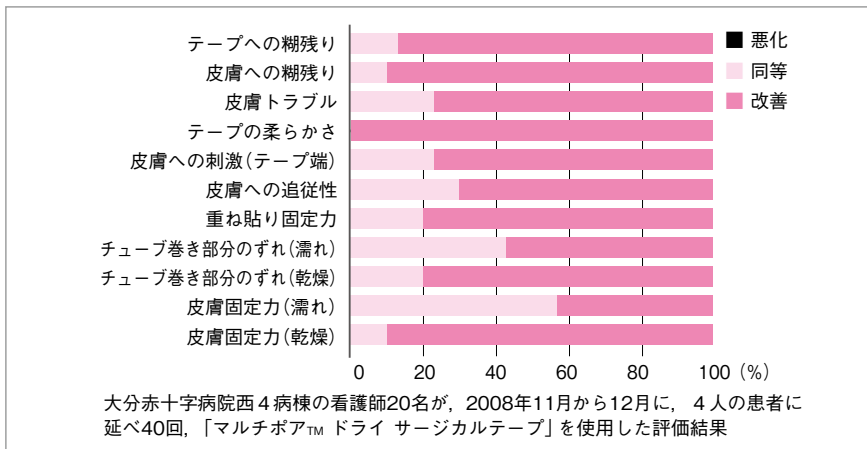
挿管チューブのずれの要因として、①固定テープ、②バイトブロックがあげられました。

①固定テープ

今回のアンケート結果から、固定テープの粘着力の低下という問題点が明らかになりました。

「粘着力の低下をきたす要因としては、髭や唾液、皮脂、汗による物質的要因があげられ、固定テープの種類を見直すことも必要だと感じました。さらに、挿管チューブがずれる要因として、固定方法自体の問題も考えられました。当院の固定方法は、皮膚に密着しているテープが短いこと、下顎にテープを貼るため動きが大きいときに不安定になること、というデメリットがありました」と原さんは言います。

●固定テープの変更による臨床使用上の改善結果



②バイトブロック

アンケートの結果から、患者の意識レベルに関係なく舌でバイトブロックを押し出そうとする行為がみられることがわかったそうです。

「バイトブロックが動くことにより、一緒に固定されている挿管チューブもずれるので、バイトブロックと挿管チューブを別々に固定することが望ましいと考えました。また、当院のマニュアルではすべての患者さんに歯牙の有無によってバイトブロックか口腔用エアウェイを使用し固定することになっています。しかし現状ではどんな場合もバイトブロックを使用する傾向にあ



速乾性のある特殊2層構造の基材を採用したサージカルテープ「マルチポア™ ドライサージカルテープ」。水分の影響を受けにくく、しっかりと固定することができます。

ります。歯牙がない患者さんなどバイトブロックが不要な場合には使用しないなど、使用条件を明確化することの必要性も感じました」(時枝さん)

固定性にすぐれ かぶれにくいテープの必要性

一方、皮膚トラブルに対しては、固定テープによる表皮剥離が多かったことから、皮膚トラブルへの事前対処の充実と、トラブルが起きた際の対処方法を確立することで改善されるのではないかと考えたそうです。

「表皮剥離は患者さん自身もつらいし、亡くなられたとき家族の方も悲しい思いをされます。家族の方がご遺体にいちばん触れる場所ですから……」

こういったことから、表皮剥離対策を重視し、挿管チューブのずれ対策同様、固定テープの種類の見直しも視野に入れました。

「医療安全推進室の皮膚・排泄ケア認定看護師に相談し、濡れに強く、しっかりと固定したい用途向けに開発されたというマルチポア™ ドライ サージ

カルテープを評価してみることにしました」

その結果、左図のような評価結果が得られました。

また、病棟の看護師から、「一度はがしても粘着力が落ちにくい」「唾液などによる固定力の劣化が改善し、しっかりと固定できるようになった」「表皮剥離が起こりにくくなった」「皮膚の糊残りもほとんどなく非常によかった」という感想が寄せられたそうです。

実際に使った時枝さんと原さんも、「固定の緩みなどのトラブルが減り、テープの交換回数が減ったので、私たちの業務の負担も軽減されました。また、皮膚ケアのための余分な材料も使用しなくてすみました」と言います。

◆
今回の時枝さんと原さんの研究により、同院の「固定手順マニュアル」の問題点が明らかにされました。

「固定テープ自体の見直しはできませんでしたが、よりよい固定方法の検討まではまだ至っていません。今後は固定方法の問題点を改善し、よりよい手順を確立し標準化できるよう努力したいと思います」と意欲的でした。

この記事に関する ご意見・ご要望をお寄せください

このコーナーは、調査・研究発表の場であるとともに、読者の皆様と3Mとの意見交換の場です。記事に対するご意見・ご要望をお寄せください。

スリーエムヘルスケア株式会社
医療用製品事業部カスタマーコールセンター
ナビダイヤル※ **0570-011-321**
受付時間／9：00～17：00(土・日・祝日・年末年始を除く)

※ナビダイヤルはNTTコミュニケーションズ(株)のサービス名称です。ナビダイヤルサービスは全国どこからでも市内料金でご利用いただけます。携帯電話からでもご利用いただけます。PHS(最初の3桁が070)からはご利用できません。